



不易

校長 神田 朋恵



6月初旬、地域の方に導かれるままに、三貫清水の蛍を見に行きました。ゲンジボタルとヘイケボタルを初めて一度に見て、しばらく時を忘れ、その幻想的な世界を堪能しました。

私は、長い教員生活、特に低学年を受け持つ中で、教育学者 森 信三氏の『しつけの三原則』を大切に教育活動を行ってきました。それはいたってシンプルで、皆さんもお聞きになったことがあるかと思います。

あいさつ、返事、後始末（履物を揃える）

「あいさつ」は、良好な人間関係をつくる第一歩です。「返事」は、素直な心、行動力を育てます。「後始末」は、自分の行動に責任をもち、ひいては相手を思う心遣いを育てます。この3つに共通するのは、「相手を敬う、相手を思いやる、相手を大切にすること」です。これをアレンジして、入学式でも「あいさつ、返事、自分のことは自分です」を頑張ってもらいたいという話をしました。

過日、宮原中学校、宮原小学校の校長、教務主任と共に、今年度の「さいたま市小・中一貫教育」の方向性を確認しました。その際、生活習慣を定着させる目標として

『3つの生活の基本』 「あいさつ・返事」、「靴のかかどを揃える」、「チャイム着席」

の取組を継続することを確認しました。私は、中学校でもこの目標であること、それを小・中一貫校で連携して取り組んでいることを大変有難く思いました。児童生徒を育てていく上で大切なこと、本質は変わらないのです。中高学年の靴箱に、左上のような掲示物があることに、合点がきました。早速、宮原中学校生徒会が中心となり、宮原小・つばさ小・本校の各児童会と連携して、「小・中合同あいさつ運動」を実施しました。本校の卒業生があいさつ運動に来てくれて、在校生も心なしか嬉しそうでした。

人は一人では生きていけません。そのための人間関係づくりを私たちは日々大切にし、見守っています。でも、トラブルはつきものです。その時に、なぜそうなっているのか、子どもにどう乗り越えさせていくのか、教師はどう指導・支援していくのか、考えます。必要であれば、チームで対応します。折しも、個人面談週間です。ご心配・ご不明な点があれば、どうぞご相談ください。時に、学校とご家庭で、持ち合わせている情報に差異が生じていることもございます。子どもを中心に据え、保護者の皆様と同じ方向を向いて、子どもにとっての最善を一緒に考えていきたいと思っています。

夏休みは目前です。子どもたちには、普段なかなかできない様々な体験やチャレンジをしてほしいです。そして、少しでもご家族と一緒にゆったりと過ごせることを願っております。



【プール清掃前、
悠悠自適な親子ガモ】